

# プール用ろ過能力計算書

プール種類	標準ターン数(回/日)
競泳プール(25・50m)	6
流水プール	8
子供プール	10
スライダープール	6
飛込みプール	6
造波プール	8
水遊び場	12

●ターン数(回/日)

$$\frac{\text{ろ過能力} \times \text{1日の可動時間}}{\text{プール水量} (\text{m}^3)}$$

●ろ過能力 (m<sup>3</sup>/h)

$$\frac{\text{プール水量} \times \text{ターン数}}{\text{1日の可動時間}}$$

※厚生労働省の「遊泳用プールの衛生基準について」ろ過装置の能力基準は4ターン以上  
 ※上記ターン数は我々の経験値でありろ過装置・プール本体メーカーにより異なります

ろ過能力計算例

条件：プール水量 357.5m<sup>3</sup> (25m×13m平均水深1.1m)

厚生労働省通達の4ターン以上を確保する為に必要なるろ過能力(Q)

$$Q = \frac{357.5\text{m}^3 \times 4\text{ターン}}{24\text{時間}} \quad Q=59.6\text{m}^3/\text{h}$$

以上により厚生労働省基準をクリアする為には最低60m<sup>3</sup>/h以上のろ過装置が必要です